

障害科学研究所

2009年3月25日発行

第33巻

2009.5.15

本学 筑大図

原著

- 1 澤 隆史・相澤宏充：
聴覚障害児童・生徒の作文における形容詞使用の発達的特徴
- 13 竹井 清香・五味 洋一・野呂 文行：
機能的アセスメントに基づく自閉症スペクトラム幼児とその母親に対する家庭内
支援—注目によって動機づけられた行動問題への効果—
- 25 木村 素子・岡 典子・中村満紀男：
19世紀末アメリカ中西部公立通学制聾学校における口話法イニシアティブとその
背景
- 45 東原 文子：九九—図形の変換課題「かけざんもよう」のC A I教材の作成と試行
—「教感覚」を意識した通常学級および学習困難児のための教材として—
- 55 有海 順子・四日市 章：
聴覚障害学生へのパソコン要約筆記における音声—文字変換の特徴
- 67 倉光 晃子・園山 繁樹：
知的障害者施設における職員の支援パフォーマンスに対する成果マネジメン
ト・プログラムの効果
—自傷行動を示す自閉性障害利用者に対する余暇支援遂行における検討—

資料

- 83 渡邊 正人・佐島 毅・柿澤 敏文：
視標のコントラストが視力におよぼす効果
—弱視シミュレーション下における見え方の特性の視点から—
- 93 宮内 久絵：1940年代イギリス視覚障害教育改革による大規模寄宿制学校の出現とその教育的
意義
- 103 阿相 幸範・高橋 甲介・高浜 浩二・野呂 文行：
自閉性障害児における同一見本合わせ課題の促進
—分化結果手続きと散在手続きの効果の検討—
- 113 中村満紀男・岡 典子：
障害児教育における目的・本質論の歴史的変遷とその理論的・実践的意義—序説
- 127 吉田 仰希・中村 晋・長崎 勤：
ASD児の社会・コミュニケーション及び情動調整のアセスメント方法に関する
検討—SCERTSモデルのSAP-O Formを用いて—
- 135 高浜 浩二・野呂 文行：
自閉性障害児の乗算学習における既学習課題挿入の効果
- 145 米田 宏樹：日本における知的障害教育試行の帰結点としての生活教育
—戦後初期の教育実践を中心に—
- 159 松下 浩之・園山 繁樹：
強いこだわりを示す広汎性発達障害児における家庭場面への支援の事例検討
—刺激フェイディング法を用いた衣服へのこだわりの軽減—
- 173 高橋 甲介・野呂 文行：
知的障害児のドット—数字の見本合わせにおける書字カウンティングの指導効果
- 187 安藤 隆男・丹野 傑史・佐々木佳菜子・城戸 宏則・田丸 秋穂・山田 綾乃：
通常学級に在籍する脳性まひ児の教科学習の困難さに対する教師の気づき
- 199 能美由希子・四日市 章：
小学校授業場面における聴覚障害児へのコミュニケーション支援
—支援者によるパソコン要約筆記と原文の発話分析—
- 211 竹村 洋子：「問題行動」を示す児童とのかかわりに対する教師の評価に関する検討
—記述式アンケートによる「減らしたい行動」についての調査から—
- 225 勝浦 暁・遠藤 悦史・園山 繁樹：
粘土造形サヴァン・スキルに比べ稚拙なデッサン・スキルを示す広汎性発達障害
児に対する眼球運動トレーニング

実践報告

- 237 川間健之介：算数文章題に困難を示す児童の指導—基礎的加減算文章題の類型に基づいて—
- 249 上野 茜・神山 努・野呂 文行：
自閉性障害幼児の遊びスキルの獲得に向けた指導の検討—好みの活動の開発—



障害科学学会

Japanese Journal of Disability Sciences

Vol.33, March 2009

Original Articles

- 1 Takashi SAWA and Hiromitsu AIZAWA
Developmental Features of Adjective Usage in Writing by Students with Hearing Impairments
- 13 Sayaka TAKEI, Yoichi GOMI, and Fumiyuki NORO
Functional Assessment and Family-based Intervention for a Child with Autism Spectrum Disorder and His Mother: The Effect on Behavior Problems Maintained by Attention
- 25 Motoko KIMURA, Noriko OKA, and Makio NAKAMURA
The Oral Method-Dominated Midwest Public Schools for the Deaf in the End of Nineteenth Century America
- 45 Fumiko HIGASHIBARA
Development and Tryout of a CAI Software for Transformation Task from Multiplication Facts to Graphical Patterns: As a Material for Learning 'Number Sense' for Children with/without Disabilities
- 55 Junko ARIUMI and Akira YOKKAICHI
Some Features of the Transcription of Speech into Text in Computer-based Captioning for the Students with Hearing Impairments in Higher-education Settings
- 67 Akiko KURAMITSU and Shigeki SONOYAMA
Effect of an Outcome Management Program for the Support Performance of the Staffs in the Institution for Individuals with Intellectual Disability: Verification in Achieving the Leisure Support for an Autistic Adult Occurring the Self-injury Behavior

Brief Notes

- 83 Masato WATANABE, Tsuyoshi SASHIMA, and Toshibumi KAKIZAWA
The Effect of Chart Contrast on Visual Acuity
— Characteristics of Two Types of Low Vision Simulation: Blur and Cloudy Media —
- 93 Hisae MIYAUCHI
A Study on the Appearance of Enlarged Residential Schools by the Reform of England's Blind Education in the 1940s and its Educational Significance
- 103 Yukinori ASO, Kosuke TAKAHASHI, and Kohji TAKAHAMA
Facilitating of Matching-to-sample Tasks by Children with Autistic Disorders: Examination of Differential Outcome Procedures and Interspersal Procedures
- 113 Makio NAKAMURA and Noriko OKA
The Changing Views of the Purpose and Essence of Education of Children with Disabilities and Their Theoretical and Practical Implications — Introduction
- 127 Kouki YOSHIDA, Susumu NAKAMURA, and Tsutomu NAGASAKI
Research on Assessment Method for Social-communicative and Emotional Regulatory Abilities of Children with ASD: Using SAP-O Form in the SCERTS Model
- 135 Kohji TAKAHAMA and Fumiyuki NORO
Effects of Interspersing the Acquired Tasks in Multiplication Learning for Student with Autism
- 145 Hiroki YONEDA
Life-centered Education as Result of Educational Trial at the Beginning of Education for Children with Intellectual and Developmental Disabilities in Japan
- 159 Hiroyuki MATSUSHITA and Shigeki SONOYAMA
A Case Study of the Support in Home Settings for a Child with Pervasive Developmental Disabilities Who Had Strong Persistent Behavior: A Discussion on the Efficacy of Stimulus Fading for Reduction of Persistent Behavior
- 173 Kosuke TAKAHASHI and Fumiyuki NORO
Effects of Counting by Writing Figures to Conduct Dot-figure Matching-to-sample in Children with Intellectual Disability
- 187 Takao ANDO, Takahito TANNO, Kanako SASAKI, Hironori KIDO, Akiho TAMARU, and Ayano YAMADA
A Research on Teachers' Awareness on Cerebral Palsied Pupils' Learning Difficulties in Regular Classrooms
- 199 Yukiko NOMI and Akira YOKKAICHI
Case Study of Teaching an Assistant Performing Captioning for a Child with Hearing Impaired in Elementary School: Discourse Analysis of Voice Interactions and Captioned Interactions
- 211 Yoko TAKEMURA
The Teachers' Evaluations of Their Interactions with Pupils who Showed "Problem Behavior" in General Classrooms: Investigation on the Pupils' Behavior that Teachers Required to Decrease by Descriptive Questionnaire
- 225 Akatsuki KATSUURA, Etsushi ENDO, and Shigeki SONOYAMA
Eye-movement Training of a Child with Pervasive Developmental Disorder who Showed Unpolished Skill in Sketch and Savant Skill in Clay Work

Practical Reports

- 237 Kennosuke KAWAMA
Intervention for a Child with Difficulties in Arithmetic Problem Solving: Based on the Classification of Basic Addition and Subtraction Problem Solving
- 249 Akane UENO, Tsutomu KAMIYAMA, and Fumiyuki NORO
Teaching Play Skill to a Young Child with Autism: Development of Favorite Activities

編集委員長	中村満紀男 (筑波大学)	池谷 尚剛 (岐阜大学)
編集委員	池田由紀江 (健康科学大学)	尾崎 久記 (茨城大学)
	奥野 英子 (筑波大学)	蒲生 俊宏 (日本社会事業大学)
	小畑 文也 (筑波大学)	佐竹 真次 (山形県立医療福祉大学)
	河内 清彦 (筑波大学)	鄭 仁豪 (筑波大学)
	真城 知己 (千葉大学)	前川 久男 (筑波大学)
	長崎 勤 (筑波大学)	安藤 房治 (弘前大学)
審査委員	安藤 隆男 (筑波大学)	池田由紀江 (健康科学大学)
	池谷 尚剛 (岐阜大学)	石部 元雄 (筑波大学名誉教授)
	石川由美子 (聖学院大学)	大石 幸二 (立教大学)
	井上 雅彦 (鳥取大学)	岡崎 慎治 (筑波大学)
	大塚 玲 (静岡大学)	岡 典子 (筑波大学)
	岡田英己子 (首都大学東京)	小畑 文也 (筑波大学)
	尾崎 久記 (茨城大学)	金澤 貴之 (群馬大学)
	加藤 靖佳 (筑波大学)	河内 清彦 (筑波大学)
	河合 康 (上越教育大学)	菅野 和恵 (筑波大学)
	川間健之介 (筑波大学)	熊谷 恵子 (筑波大学)
	北村 博幸 (名寄市立大学)	佐竹 真次 (山形県立保健医療大学)
	齋藤 佐和 (目白大学)	佐藤 正幸 (筑波技術大学)
	左藤 敦子 (筑波大学)	篠原 吉徳 (筑波大学)
	澤 隆史 (東京学芸大学)	大六 一志 (筑波大学)
	園山 繁樹 (筑波大学)	鄭 仁豪 (筑波大学)
	武居 渡 (金沢大学)	長崎 勤 (筑波大学)
	鳥山 由子 (筑波大学)	野口 幸弘 (西南学院大学)
	中村満紀男 (東日本国際大学)	林田 真志 (広島大学)
	野呂 文行 (筑波大学)	東原 文子 (筑波大学)
	原島 恒夫 (筑波大学)	藤原 義博 (筑波大学)
	肥後 祥治 (熊本大学)	前川 久男 (筑波大学)
	古田 弘子 (熊本大学)	松村多美恵 (茨城大学)
	松岡 勝彦 (山口大学)	柳本 雄次 (筑波大学)
	宮本 信也 (筑波大学)	米田 宏樹 (筑波大学)
	四日市 章 (筑波大学)	山中 克夫 (筑波大学)
編集幹事	大六 一志 (筑波大学)	

障害科学研究

第 33 卷 (2009, Vol. 33)

平成 21 年 3 月 25 日 発行

編 集 障害科学学会 編集委員会

発 行 障害科学学会 会長 池田 由紀江

発行所 障害科学学会
〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1
筑波大学障害科学系内
FAX 029(853)6504
e-mail adsj@human.tsukuba.ac.jp

印刷所 前田印刷株式会社筑波支店
〒305-0033 茨城県つくば市東新井14-3
電話 029(851)6911

投 稿 規 定

1. 本誌は、障害科学学会の機関誌であり、年1巻発行する。なお巻号は前身の雑誌である「心身障害学研究」を引き継ぐものとする。
2. 本誌の執筆者は障害科学学会会員に限る。
3. 本誌の編集は、障害科学学会編集委員会の責任のもとに行われる。
4. 本誌には未公開の和文または英文で書かれた障害科学に関する「原著論文」、「短報」、「資料」、「実践報告」、「展望」のほか、編集委員会が認めた論文等を掲載する。このうち、「原著論文」は、理論的、実験的または事例的な研究論文で、オリジナルなものとする。「短報」はそのようなオリジナルな研究の途中経過や一次的な報告を指す。これに対し、「資料」は、調査、統計に関するもの、歴史的に価値ある文献資料の紹介、方法論的試論、新しい実験装置の紹介、内外諸研究の追試検討したものとする。また、「実践報告」は実践報告会、事例検討会等でモデルとなりうる報告、「展望」は障害科学に関係のある課題について、内外の諸研究の成果を総合的に概観・展望したものとする。
5. 論文は、査読委員によって審査され、編集委員会において、その掲載の可否が決定される。
6. 規定枚数を超過したもの、および図表、写真等の製版・印刷等、特に費用を要するものは、別途執筆者の負担とする。
7. 別刷りは執筆者の負担とする。
8. 本誌に掲載された論文等の著作権は障害科学学会に帰属し、無断で複製あるいは転載することを禁ずる。
9. 投稿論文の内容について、十分に人権および倫理上の配慮がなされていないといけない。

執 筆 規 定

1. 原稿の仕様 原則としてワープロを用い、A4判用紙に25字×32行（800字）で印字された原稿を提出すること。A4判用紙の原稿2.5枚は刷り上がり1頁に相当する。和文では、本文、文献、図表、要約をすべて含めた論文の刷り上がり頁数は、原著論文、資料、実践報告、展望は10頁を上限とする。英文では、本誌8頁（approximately 550 words per page; including Abstract, References, Tables, and Figures）を上限とする。また、短報は和文で5頁、英文で4頁とする。これを超過する論文については、編集委員会に掲載の可否を決定する。
2. 提出原稿 原著論文・資料ともに、オリジナル1部とコピー2部を添えて提出すること。また提出原稿はA4判とし、表紙には和文表題、英文表題、執筆者名、代表者の連絡先（電話番号を含む）を明記すること。なお、論文採択後には電子ファイルを提出する。
3. 図表など 白紙に黒色インクで明瞭に書かれたものを用い、写真を用いる場合は鮮明なものを提出すること。表や図の番号はTable 1, Fig. 1のように記入し、表題、説明ともに一括して別紙に記載すること。また、本文中にその挿入箇所を明示すること。
4. 和文要約 和文論文および英文論文には、問題、方法、結果、結論の概要をほぼ把握できるように、和文で400字以内の要約と3～5項目の和文キーワードを本文とは別葉にて提出すること。
5. 英文要約 和文論文および英文論文には、英文表題、200～300ワードの英文要約、3～5項目の英文Key Wordsを本文とは別葉にて提出すること。
6. 表記 新かなづかい、常用漢字、算用数字を用いること。外国人名・地名等の固有名詞以外はなるべく訳語を用い、必要な場合は初出の際にだけ原語を付す。文献は論文の最後にアルファベット順に一括して示すこと。雑誌文献記述の形式は、著者名、発行年、題目、雑誌名、巻数、論文所在頁の順とし、単行本文献記述の形式は、著者名、発行年、書名、出版社、出版地の順とする。
7. 註 必要がある場合は、本文中に1)、2) …のように上付きの通し番号で註を付し、すべての註を本文と文献欄の間に番号順に記載すること。
8. 印刷形式 印刷の体裁は編集委員会に一任する。
9. その他 執筆に関する詳細は、日本特殊教育学会の『「特殊教育学研究」和文論文執筆の手引き』と、最新の特殊教育学研究英文特集号の表紙裏Information for Contributorsに従うこと。